



山口祇園祭・御神幸

大内七夕まつり



八坂神社の祭礼・山口祇園祭。豎小路を下っていく御神幸では、まなび館前で冷たい麦茶をご用意します。

8月7日まで、商家町家を生かした七夕飾りを行います。ご来館の折には季節の行事をお楽しみください。



大内七夕まつり

天の川に隔てられた織姫と彦星が年に一度逢うことができるという7月7日。七夕には、笹竹に願いごとを書いた短冊をつるすという風習が古くから行われてきました。

伝承センターのまなび館では、7月1日（土）から8月7日（月）まで、商家町家の吹き抜け空間を生かした、「大内文化」をテーマにした七夕飾りを行います。

東山保育園児が飾りつけた大内人形七夕、山口ちょうちん七夕やほたるもん七夕、和布七夕などを飾りつけます。大内氏歴代当主が詠んだ和歌の短冊を飾った「大内のお殿さま和歌七夕」に、大内文化について紹介するビデオを上映、時をこえて「大内文化」をあじわえる場に。ご来館の折には大内人形短冊に願い事を書いて飾り、季節の行事を楽しんでみてはいかがでしょうか。

まちづくりNEWS ◆三二暮音小路◆

史跡大内氏遺跡保存活用計画の策定会議も始まる

大内文化特定地域内の、道や街並み整備を願う、まちなみ協議会では総会が開催され、これまで紹介してきた道路整備に加え今後の路線の在り方に加えて地域に残る伝説等ソフト面の再発掘や物語化も協議されました。

これとは別に山口市文化財保護課が担当する大内氏の遺跡群の策定会議ではこれまでとは観点を変え保存だけに留まらず活用という観点での検討も加えられ、山口市全体に散らばる室町時代の史跡を大殿地域を中心に結びつけて行く動きも始まっています。映像は高嶺城跡の石垣探索ですが大内氏の夢の跡が街筋と共にたおやかな時を刻んでおり史跡の大切さも再認識しました



⑨鞍馬小路

荷物を運搬する馬の鞍も山口名産として知られ、工房がここにあったのかもしれない。現在県道 204 号となっている場所にかつて存在した三階屋の北側の小路で、今の歩道あたりだったようです。

⑩人馬所

下豎小路西側、鞍馬小路のつきあたりに目代所という役所がありました。藩の公用のために往来する役人や、他藩の使いの者が利用する人夫や馬、駕籠などを用意しておく役所で、絵図では「人馬所」とあります。天保（1840年頃）の記録によると瓦葺で、伝馬 28 頭、人夫 22 人とあります。

⑪御高札

豎小路の南端、萩往還と石州街道の交差点に、法令などを広く周知させるため、木の札に書いて掲示した高札場がおかれ、「札ノ辻」と呼ばれました。人通りが多い場所だったことが窺えます。明治になってからしばらく県庁の公告所が置かれていました。

⑫笠着堂

米屋町の北側にあった連歌堂。山口祇園会の際、毎夜ここで連歌会が開かれ、つくられた七百韻の連歌懐紙は御還幸の神輿にかけて奉納されました。大内時代山口は連歌の一拠点で、江戸時代にも連歌愛好の風は受け継がれ、町衆の間で親しまれました。

⑬新道

安部橋付近から屋形南門に通じる道路が新たに敷かれました。

近世山口の特産品

江戸時代の山口でも様々な産業が発展し、振興策も試みられました。

山口木綿は質がよく、大坂市場で珍重された人気商品でした。木綿織物業が山口の基幹産業だった時期があり、道場門前の豪商安部家は木綿の集荷・販売も手掛けました。

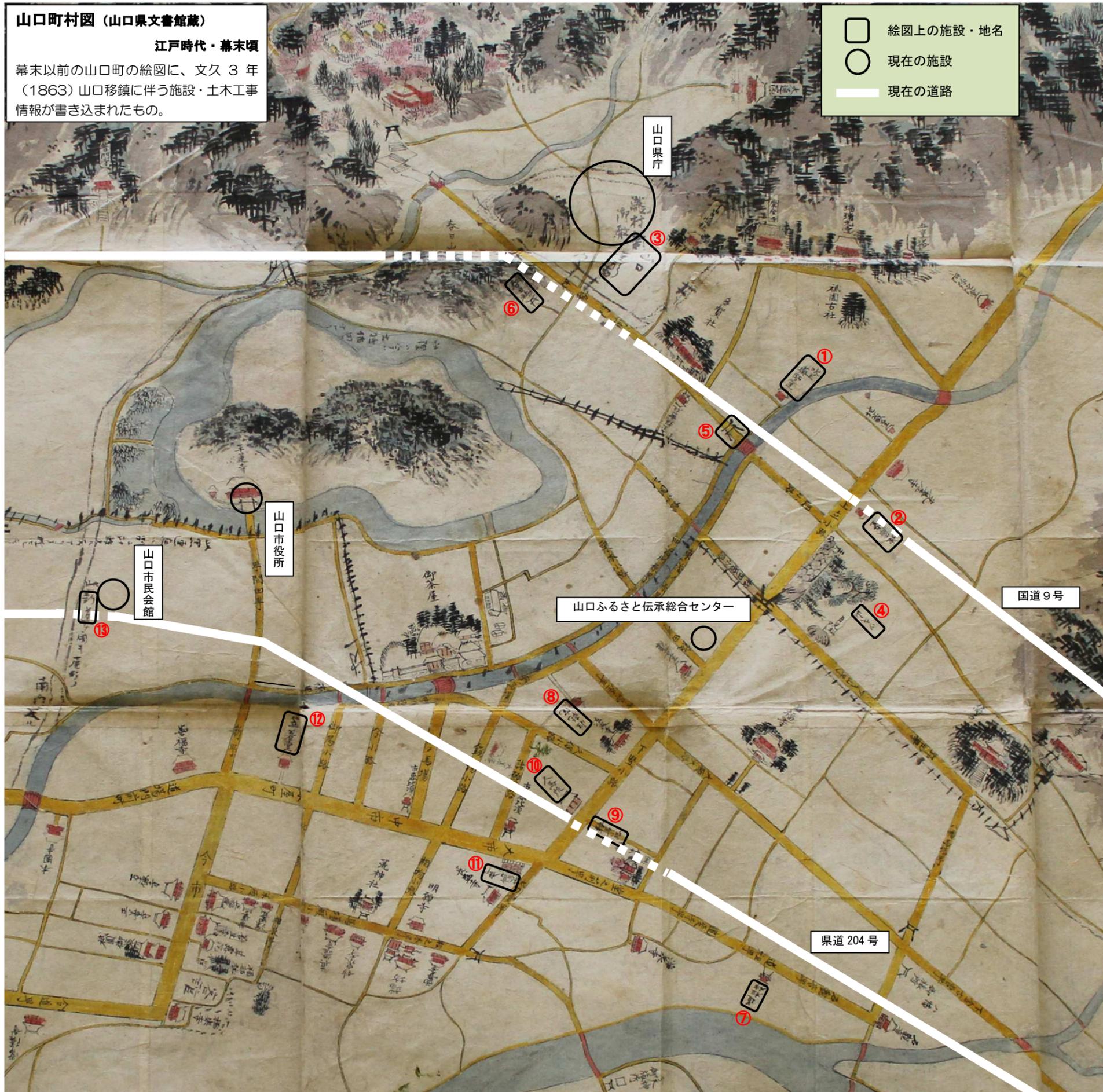
後河原町は「山口椀」と呼ばれる製品の一大生産地で文化 13 年（1814）には椀屋が 60 軒ほどあり、いかなる椀の生産も可能だったとか。

大内時代まで遡る歴史をもつといわれた下豎小路のつるし柿は、毎年藩公に献上され、京都でも好まれていたといえます。

山口町村図（山口県文書館蔵）

江戸時代・幕末頃

幕末以前の山口町の絵図に、文久 3 年（1863）山口移鎮に伴う施設・土木工事情報が書き込まれたもの。



①水ノ上薬師堂

山口七薬師のひとつ。水上寺の古跡と伝えられます。

②地藏堂

大内弘直（?～1336）が彫ったといわれる地藏菩薩は、政弘の代に一の坂に祀られ、のちに銀山の祈願所に。大火の際この地に飛来し、お堂に祀ったと伝えられます。国道 9 号開設に伴い、南側歩道そばに移されました。

③山口屋形

藩主毛利敬親は文久 3 年（1863）本拠を萩から山口へ移し（山口移鎮）、元治元年（1864）この地に山口御屋形（藩主御殿）が竣工。敬親は慶応 2 年（1866）ここに移り住み政務を執りました。

④ツキ山（築山）

今の八坂神社・築山神社境内、料亭菜香亭跡地一帯は大内教弘（1420～65）の頃に造営された別邸築山屋形の跡で、大規模な庭園があったと伝えられます。発掘調査により大内氏館跡につぐ規模の堀がみつかりました。宝暦末（1764 頃）までは大内時代からの大松があり、天明 2・3 年（1782・83）頃には四方を竹藪に囲まれ、一部を切り開き池を埋めて畑にしたといえます。築地の石垣は幕末、山口新御屋形（山口城）の石垣に転用されたと伝えられます。

⑤鳥居

山口大神宮に通じる伊勢橋のたもとに石鳥居がありました。寛文 3 年（1663）藩主毛利綱広より寄進されたもので、昭和 35 年道路拡幅に伴い大神宮石段正面に移されました。

⑥春日社

天文年間（1532～1555）大内義隆が創建したといわれ、慶応 3 年（1867）八幡馬場に移され、現在今八幡宮境内に八柱神社として祀られています。

⑦道祖神

大内氏の祖・琳聖太子（611 年来朝）が創建したと伝えられます。町名の由来となり、交通安全の神様として親しまれてきました。

⑧性乾院

かつて浄土寺と号し、長山城番をつとめた三浦元忠（1596 没）の香華所となり（1613 年）、その法名により性乾院と改号。馬場殿小路の九品寺が嘉川へ移り、明治 4 年その跡地に移りました。

7月スケジュール

教室 OB会

日	月	火	水	木	金	土
6/25	26	27	28	29	30	1 七夕飾り〜翌7 鶏流 鶏流 竹細工
2	3	4	5	6	7	8
竹細工 竹細工	和裁 型染①	陶芸A トール	陶芸A ハッチ③	陶芸B レザー①	陶芸B 大内塗	大内塗 着付 鶏流 鶏流
9	10	11	12	13	14	15 夏休み陶芸体験
こども茶の湯	型染 型染② 和裁	トール	ハッチ①	レザー 和裁	レザー③ ハッチ②	手織 鶏流 鶏流 竹細工
16	17	18	19	20	21	22
祇園会奉納連歌 竹細工 竹細工	型染③	トール	竹細工 ハッチ③	祇園祭御神幸 レザー①		夏休み大内塗体験 鶏流
23	24	25	26	27	28	29
夏休み木工体験 こども茶の湯	型染 型染④ 和裁	トール	ハッチ① 染色	祇園祭御還幸 和裁	そば打ち体験 レザー ハッチ②	レザ③ 手織 大内塗 鶏流
30	31	8/1	2	3	4	5
陶芸絵付け体験	和裁					

ものづくり講座・体験等のご案内

そば打ち体験

打ったそば3人前をお持ち帰り
日 時：毎月最終週、7月は27日（木）
13:30~16:00
定 員：14名（抽選にて選定）
体験料：1,000円（材料費含む）

陶芸絵付け体験

素焼きの皿に絵付けをします。
日 時：7月30日（日）14時~16時
定 員：先着20名（小学生以下は要保護者同伴）
体験料：1皿500円（1人2枚まで）



夏休みものづくり体験・シルクスクリーン版画

自分でデザインして簡単な切り絵の版を作り、布に染料でプリントします。
日 時：8月19日（土）①10:00~12:30
②13:30~16:00
対 象：小学生①②各回先着20名（組）
（3年生以下は要保護者同伴）
材料費：1000円



竹の割り方・剥ぎ方技術講習会

竹の割り方・剥ぎ方の基本を学びます。
日 時：日曜コース：8月27日、9月3日・17日
水曜コース：8月30日、9月13日・27日
いずれも9:30~11:30
講 師：田中 勉氏（竹細工研究家）
定 員：両コース合わせて先着20名
受講料：3000円（3回コース）



申込受付：7月18日（火）9時から
（そば打ち体験受付は7月20日（木）まで）

東日本復興支援のため寄付しました

「復興のために何かできることを・・・」ひとりの力もたくさん集まれば大きな力になります。
2月から4月にかけて、チームO IDEMAS E（伝承センター、大路口ビー、菜香亭、赤れんがの各管理運営団体参加・連携）による「桜めぐり&お茶めぐり」で、お茶席など様々なチャリティーイベントを開催しました。売上の一部と募金を復興支援金として「ふくしまこども寄付金」「山口東北人会」にそれぞれ32,000円を寄付させていただきました。ご協力いただいた皆様有難うございました。
（写真は山口東北人会への寄付金贈呈の様子）



幕末維新の本、好評販売中

『山口市幕末維新史跡ガイドブック』の続編として、歴史の流れを分かりやすく学べる入門書『幕末維新がわかる本 山口市版』（山口市発行・A5判 定価500円）が6月から発売され、伝承センターでも2冊とも販売中です。



山口ふるさと伝承総合センター発行
〒753-0034 山口市下野小路12
TEL 083-928-3333 FAX 083-932-1877
E-mail y-densho@c-able.ne.jp
URL <http://y-densho.sblo.jp/>

館内見学時間
9:00~17:00
入場料 無料